SINCE 1893 創立 130 周年 HANDA CCI 2023

VOL.1

特集企画

半田商工会議所は今年で創立130周年を迎えます。
そこで今年度のカイギショゲッポウでは、「創立130周年特集」を毎月掲載します!
前半では、当所が創立された1893年～現在に至るまでの、当所の歴史を世界の動きや半田市の動きと照らし合わせながら、紹介します。皆様も、一緒に歴史を振り返ってみませんか?

記念すべき第1回目は、創立～第2次世界大戦終戦までの約50年間を一気に掲載します。

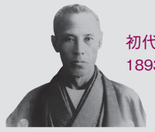
イミヲ

この130知っていましたか?

全国共通の商工会議所ロゴマーク

日本商工会議所が1957(昭和32)年に全国から募集し、1等に入選した作品。
商工会議所の英文字「CHAMBER OF COMMERCE & INDUSTRY」の3つの頭文字を組み合わせ、さらに日本の地図に似せたもの。
また、鳥が翼を広げて大空を飛ぶ様子も表現しており、各地の商工会議所が飛躍することを示している。

半田商工会議所の歩み 1893年～1945年



初代会頭　榊原 由一
1893年～1896年

第2代会頭　天埜 伊左衛門
1896年～1905年

第3代会頭　井口 半兵衛
1905年～1911年

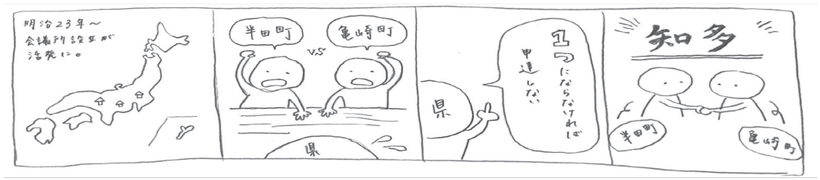
第4代会頭　沢田 儀左衛門
1911年～1912年

第5代会頭　中埜 良吉
1912年～1937年

第6代会頭　小栗 三郎
1937年～1943年

- 1893 知多商業会議所 設立
- 1894 知多郡木綿晒業組合 設立
- 日清戦争 はじまる
- 1896 知多運河開設を知事に建議
- 知多商業会議所報告を創刊
- 1901 知多郡味噌醤油同業組合 設立
- 1904 日露戦争 宣戦布告
- 1910 知多産物の韓国輸出が積極化。韓国の視察団(50名)が来郡。
- 1914 第一次世界大戦 はじまる
- 1917 商工業者優良使用人 表彰規定を制定
- 1918 食用外米の管理機関となる臨時外米管理制度により
- 1921 知多商工月報 創刊
- 1922 営業税全廃期成同盟会 結成
- 1923 定め運動展開 毎月1・15日を節約の日と
- 関東大震災
- 1927 知多商工会連合会 結成
- 1928 商工会議所法 公布
- 知多商工会議所へ改称 知多商業会議所より
- 1929 4部会制を発足 商業・工業・交通・理財の
- 1934 所屋新築地鎮祭
- 1937 半田市市制 実施
- 半田商工会議所と改称
- 1939 第二次世界大戦 はじまる
- 1940 衣ケ浦港湾期成同盟会 結成
- 1943 豊醸組、半田酒造組合と改称
- 1945 創立50周年記念式典
- 第二次世界大戦終了 ポツダム宣言受諾。

1893年(明治26年)　知多商業会議所のはじまり



1890(明治23)年9月に商業会議所条例が交付されると、各地において会議所設立の動きが活発となった。
半島にも半田あたりにぜひ欲しいという機運が盛り上がった。

当時、競い合い良いライバル関係にあった半田町と亀崎町は、設立に際しても両町の事業者を中心とした設立許可の申請が提出された。

取り扱いに困った県からの、「一本化できなければ国に申達しない」との返事で両者が和解。

名称を半田・亀崎にとらわれず「知多」として申請。愛知県で4番目、全国で38番目の「知多商業会議所」が認可された。

1921年(大正10年)　知多商工月報を創刊

カイギショゲッポウの前身

1921(大正10)年、知多商工月報が創刊された。創刊号は残っていないものの、第五号の9月号からは半田商工会議所内に現存している。

1934年(昭和9年)　新事務所の建設

半島イチのモダンな建物

会議所新築は多年の懸念であったが、相当の資金を要するため容易に決行には至らなかった。
しかし、時勢の進展と商工業者の発達に伴い、建築の急務を痛感し決行を決議。半田・亀崎・成岩3町41名の篤志者からの寄付もあり、1934(昭和9)年12月23日に総額37,000円を投じて、延べ建築144.44坪の鉄筋コンクリート2階建ての新事務所が竣工した。
当時としては、半田駅前に異彩を放ったモダンな建物であった。

1937年(昭和12年)　半田市の誕生

半田商工会議所に改称

当時、大正デモクラシーの時代からファシズム体制の時代へと大きく転換していた。このような重大局面に突入したころ、半田町と成岩町の間では合併の話が出ていた。市街地は連帯し、港もお互いに利用し合う立地的な条件に恵まれていたからである。
しかし、なかなか話が纏まらなかったところに、亀崎町から半田町へ合併の申し出があり、亀崎町・半田町の2町で手続きを進めた。
そんな中、成岩も含めるべきとの声もあり、半田・亀崎・成岩の3町合併で半田市が誕生した。
半田市の誕生により、当所も「半田商工会議所」へと改称した。

1939年(昭和14年)～　戦時体制へ

経済活動が低迷、会議所の活動も困難に

第二次世界大戦の戦火が激しくなるにつれて、民間工場も軍需工場に変換されたものの、工場技術者を始め従業員は次々と招集を受けて労働力は日を追って不足してくることとなった。そのため学徒動員、女子挺身隊の出動となり、市内の学生はもとより県外の中学生も市内の軍需工場で汗を流した。
また、産業界再編成の動きが高まり、中小商工業者の組合化も進められた。(半田鉄工機械工業組合・半田経済会・知多味噌溜醤油工業組合等)このように米を始め生活必需品は全てキップ制となり「ぜいたくは敵」から「欲しがりません勝つまでは」の時代へと移っていく中、経済活動も停滞し、商工会議所の活動・運営が困難になりつつある中、1943(昭和18)年6月、創立50周年の記念式典が会議所で行われた。

出展:半田商工会議所100周年記念誌